

## 山形、秋田の天理教

山形、秋田両県の天理教伝道を概観してみよう。二つの県は日本海側気候で県域の90パーセントが特別豪雪地帯である。他の東北各県と比べ、やや異なった歴史、文化を持っていると言える。山形はサクランボなど果樹栽培が盛んで、秋田は美味しいお米と良質の秋田杉を産する。さらに加えると、山形県出羽三山の修験道や秋田県阿仁地区のマタギなど特異な歴史文化がある。これらが天理教伝道に何らかの影響を及ぼしているかもしれないが、筆者は十分に考察する知識をまだ持たない。

山形県の教会数は75カ所で東北では最も少ない。県の教会が百カ所に満たないのは沖縄、富山、山梨、福井と山形の5県である。沖縄は教会本部から遠隔の地。富山、山梨、福井は県人口が少ないことと仏教の盛んなことが主な理由であろう。そして山形も人口当たりの寺院数が多く、人口も広い面積の割には少ない。仏教が盛んな富山などと同じ理由ではないか。

山形県の教会を現在の大教会で分けると、名古屋大教会が最も多く31カ所。続いて鳥ヶ原13カ所、山名7カ所、那美岐と北洋が4カ所ずつである。名古屋のみで県の41%、鳥ヶ原を合わせると60%近くになる。ただし、山形県の名古屋系統は現北洋大教会の伝道から始まった。

山形県は村山、最上、置賜、庄内の4つの地域に分かれ、それぞれ歴史、文化、言葉などに違いがある。天理教伝道も地域差があるのだろうか。村山は県の中西部で山形市など最も人口の多い地域。最上は新庄市と最上郡の県北東部で人口は多くない。置賜は県南部で米沢市、長井市など。庄内は日本海に面した地域で酒田、鶴岡などの都市がある。4地域の教会系統別分布を見てみよう。

村山と置賜は名古屋系教会が大半を占め、鳥ヶ原を加えると全体の4分の3になる。最上は教会が6カ所と少なく、半分が那美岐系統で秋田県桂城分教会の伝道によるものである。庄内は山名と北洋が4カ所ずつあり、他系統は多くない。

明治26年、新潟県北洋大教会の初代会長になる近藤徳蔵は義弟近藤嘉七から教理を聞き入信した。嘉七は名古屋大教会初代会長になる人である。徳蔵は入信後すぐおたすけを始め、翌年には妻の弟近藤与市を頼り山形県米沢で布教した。徳蔵、与市と横山文之助などの布教により置賜地方一帯に北洋系講社ができ、明治29年に現置賜分教会が設立された。徳蔵らの伝道は村山地方にも伸び、置賜、村山あわせて30カ所近くの教会となった。これらの教会は大正11年に北洋の上級教会であった名古屋大教会に直接所属することになり現在に至っている。

鳥ヶ原大教会系統の教会は13カ所で県の4地域全てにある。明治27年、三重県の鳥ヶ原系布教師上田熊五郎は東京へ布教に出たが、思わしくなく福島での布教を経て山形市にたどり着いた。山形では不思議な守護があり入信者が続出。さらに北方の東根、新庄へ、また日本海側の酒田へも伸びた。酒田では「堀助」という廻船問屋が入信し、大きな力となった。明治28年に現山形分教会が上田熊五郎を会長として設立された。

なお、他にも三重県の鳥ヶ原から山形方面へ布教した人があり、東部、長井など現在4カ所の教会がある。

秋田県の伝道に入る。県には教会が143カ所あり、青森に次

いで東北では2番目に多い。現在の大教会によって分けると、湖東大教会35カ所、以下大垣大教会27、那美岐大教会18、鳥ヶ原大教会13、山名大教会12、北洋大教会10などである。新潟県の北洋を除く各大教会は秋田から遠い。直接秋田へ伝道されたのか、それともどこかを経て伝わってきたのだろうか。

秋田に天理教が入ったのは明治20年、もしくは21年頃(19年という説もある)だと思われる。東北では最も早いかもしれない。本荘町の佐藤嘉右衛門は東京真明組(現東大教会)の布教師から話を聞いて入信、周辺を布教したが教会設置には至らなかった。そこへ明治30年頃、新潟県北洋系北蒲原の布教師が伝道活動を展開、佐藤たちも北洋系に合流し、明治33年、現在の由利分教会が設立された。

秋田県に大教会はないが、大教会に匹敵する阿仁分教会(湖東)、六郷分教会(大垣)、桂城分教会(那美岐)がある。

能代市の湖東系阿仁分教会は、現在阿仁を含めて45の教会があり、その内の30カ所が秋田県内にある。また阿仁部内の大館分教会も30カ所の教会を有し、その内16カ所が秋田県である。能代市、大館市、北秋田市など県北はほとんどが湖東系の教会で占められる。

明治29年、滋賀県現湖東大教会の布教師菱川善次は東京布教しようと故郷を出た。思うところあって千葉へ移り、更に北上し秋田県横手から能代港町に腰を落ち着け布教した。不思議な神様と評判を得、周辺に広まる。マタギの里として名高い阿仁で盛んになり、明治31年上大野村に現阿仁分教会が設立された(後、能代へ移転)。明治30年には阿仁の布教師伊東宇三郎が大館に布教、鈴木為五郎を担任に明治32年、現大館分教会が設立された。

次いで六郷町(現美郷町六郷)にある六郷分教会は35カ所の関係教会を持ち、その内27カ所が秋田県内にある。明治28年六郷町の小西金之助は易学の一つである太占の教授を受けるため岐阜県現大垣大教会の藤江半之丞を訪ねた。藤江は太占を教えた後、今は占いより優れた教えを信仰していると天理教を勧めた。教えを聞いた小西はこれが自分の求めていたものだと、おぢばに参拝し六郷で布教に邁進した。明治31年現六郷分教会が設立された。助けられた信者たちは家財を持ち寄り教会で共同生活を始めた。地域の秩序を乱すと警察から問題視されたという。現在、仙北、大仙、横手など県の東部に教会が多い。

角館町(現仙北市角館町)の那美岐大教会部属桂城分教会は60を超す部内教会を持ち、うち秋田県に18カ所がある。栃木県の現那美岐大教会布教師、戸賀崎五郎治は明治31年、青森県の知人を頼って布教に出たが、知人はすでに亡くなっており、当てもなく歩くうち田沢湖畔を経て角館にたどり着いた。宿泊した旅館の子供を助け、角館に信仰が根づいた。町の有力者渡辺藤右衛門とその孫の虎蔵が入信し熱心に布教、明治34年角館出張所(現桂城分教会)が設置された。仙北、横手、湯沢など県の東部に教会が多い。

以上の他、鳥ヶ原、山名、北洋の教会がそれぞれ10カ所余りある。紙幅の都合で詳細は省くが、鳥ヶ原系は横手付近、山名系は県南東部、北洋は県南西部に教会が多い。